

# ふじみサラダボール子育て情報

「発達と遊び」

令和6年11月6日号

板橋富士見幼稚園



## 遊ぶ子は考える癖がつく

人の脳には、生命を維持する分野と言葉を覚える分野、そして推論・記憶・認知などの分野があり、とても複雑な構造と神経が入り組んで、人間としての機能をコントロールしています。どの分野一つとっても大切で修復が不可能とされています。

生後5年間は、人生の中でもっと著しく発達を遂げる時期と言われています。この時期に、たくさんの体験や経験を介して情報をため込むことは、将来の人生に大きく左右すると言われています。この時期の5年間は、しっかり遊び、しっかり食べて強い身体と心を育てていきたいですね。

では、沢山の体験や経験を子どもにさせるには、どうすれば良いのでしょうか。それは、遊びです。それも主体的で自発的な遊びが、最も深い学びに繋がると言われています。そのため国は、幼児期の遊びについて、乳幼児に豊かな環境（特に自然）を与え、自由に遊ばせてあげることが大切であるとしています。つまり、安全に遊ぶ環境を提供し、自発主体的な行動を見守ることが最も適した生活となります。

自然環境の中で自ら好奇心や興味関心を持ち遊ぶ遊びは、その始まりと同時に、思考を思い巡らせ、沢山の体験や経験を次々に脳の中に将来の情報として蓄えはじめます。こうした体験や経験を繰り返すことで、子どもは自ら考え、工夫し、何事もやり遂げようとします。そうして自ら達成感を味わい満足感に浸ることによって、安定した心と自信を手に入れるのです。



自信を手にした子どもは、他児に対しても自分の思いや考えをしっかりと言えるようになり、言葉の獲得を加速していきます。言葉で対話が十分に楽しめるようになると、「考える」ことが癖になってきます。この癖を幼児期から身につけておくことが最も大切です。自然環境の中で夢中になっている姿や没頭する姿と出会えるよう、ぜひ我が子の遊びを見守ってあげてください。



【園庭の柿が色づき梯子で収穫しています。大きさや色を比べながらみんなで味わっていきます。】